



事業継続計画（BCP）対応 「リスク発生に備えた資金手当てについて」

2012年3月29日
海上商事株式会社
東京海上日動火災保険株式会社

本日ご説明の内容



- I. 事業継続計画（BCP）とは
- II. 東日本大震災以降の（BCP）取組状況
- III. 東日本大震災の事例（映像）とご提案コンセプト
- IV. ご提案の背景
- V. 操業中断リスクへのご提案
- VI. 保険採用のメリット

I. BCP(事業継続計画)とは



- 企業が
《自然災害》
《大火災》
《テロ攻撃》など緊急事態に遭遇した場合
- 事業資産の損害を最小限にとどめ
- 中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするため
- 平常時に行うべき活動、緊急時の『事業継続の方法、手段など』を取り決めておく計画

I. BCP(事業継続計画)とは



- 緊急事態⇒突然発生
有効な手を打つことがきでなければ

- 中小企業など経営基盤の脆弱な企業
- 廃業に追い込まれる可能性
- 事業の縮小⇒従業員を解雇しなければならない状況に



I. BCP(事業継続計画)とは

- 緊急時の倒産、事業縮小の防止策
 - A)平常時からBCPを周到に準備
 - B)緊急時に事業の継続・早期復旧を図る
- 顧客の信用を維持
- 市場関係者から高い評価
- 企業価値の維持・向上につながる

II. 東日本大震災以降のBCP取組状況



- 東日本大震災以降BCP取組企業の大幅増
- 調査結果全体の88.9%が取組
- 製造業85.9%、非製造業91.9%取組
- 従業員1,000人以上95.4%取組
- 従業員1,000人未満82.2%取組

一方で

➤従業員500名未満の企業の21.1%がBCP策定の予定なし

II. 東日本大震災以降のBCP取組状況



□具体的な見直し項目

- ・被害想定⇒58.5%
- ・重要業務の具体的実施手順⇒57.9%
- ・対策本部の組織・権限⇒39%
- ・重要業務
- ・その他(帰宅困難者対応、初動対応、停電対応など)

II. 東日本大震災以降のBCP取組状況



新たな対策(製造業の場合)

a.サプライチェーンの観点からの取り組み

- ・サプライヤーの代替方針の確立⇒56.5%
- ・サプライヤーの危機管理方針調査⇒54.1%
- ・シングルソースの洗い出し・評価⇒45.3%
- ・帰宅困難者対策39.4%



II. 東日本大震災以降のBCP取組状況

b. サプライヤーが抱える問題(数字は現在の実施状況)

- ・ サプライヤーの代替方針の変更(82.9%)
- ・ サプライヤーへの危機管理方針調査(70.6%)
- ・ シングルソースの洗い出し・評価(79.4%)
⇒対応できる<早期復旧に向けた> BCP計画の策定
- ・ サプライ契約が破棄された場合の備え
⇒企業継続に向け<収益減少・雇用問題>への対策

II. 東日本大震災以降のBCP取組状況



c. リスク発生時の経済的損失の対する備え

- ・ 火災保険⇒86%
- ・ 賠償責任保険⇒78.1%
- ・ 水災に対する保険⇒31.5%
- ・ 地震災害に対する保険⇒31.2%
- ・ 利益保険19.8%

ご提案のコンセプト

本提案は、企業を取り巻く様々なリスクの中でも、昨今の経済・社会情勢の変化により、リスク対策の必要性が高まっている「操業中断リスク」とその対策についてご提案するものです。
(本提案のコンセプト)

事業中断リスクの高まり 事業中断による影響

- 顧客・マーケットの喪失
- 納入先への供給責任の途絶
- 企業価値の低下
- 収益の減少
- キャッシュフローの悪化

事業中断リスク対策の必要性の高まり 必要な対応策

早期復旧

資金手当て

本日のご提案

BELFOR社の活用

休業補償

※電災時にお客様にヘルフォア社のサービスを受けられることを約定するものではありません。

IV. ご提案の背景

ご提案の背景・・・操業中断事故発生時の間接損害の被害額の増大



間接損害が直接損害額を大きく上回った事故例

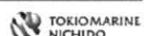
百万円

業種	利益損害額	物損害額	事故概要
電気・電子 製造業	2,364	70	電子部品製造工場構内の製造棟内試作品展示室におけるパソコン電源コードのショートによる火災
合成製造業	470	53	化学工場の程和（ねっか）工場で、無煙火薬を製造するため、原材料の湿餅薬・ニトログアニジン・エチルセントラリット・水晶石等を混ぜ合わせていたところ突然出火、爆発が起こった
プラスチック加工業	344	34	合成エタノール製造装置で、原料エチレンが配管から漏洩し、引火爆発した。
石油化学業	245	185	化学工場で誤信号によりガイド車が異常走行し、赤熱コクスがガイド車の計器室に入り込んで同車が焼損、続いて、消火電車が連鎖倒壊し、破損した。
洋紙製造業	113	6	製紙工場構内にある変電所に猫が侵入、変圧器の上部に載ったため、短絡・アーク・爆発音が発生した。前記アークにより火災が発生、ケーブル、建物、設備の一部が焼損した
合成繊維製造業	104	21	化学工場構内雷管工場（鉄骨造スレート葺平屋建）にて、朝方、製造中の起爆薬（爆粉）が爆発、現場付近の延50㍍の屋根・外壁等が損壊
石油化学業	1,120	構外のため無	構外原料供給施設のガス漏洩による火災

事故発生時は利益損害額が物損害額を大きく上回る可能性有り

12

ご提案の背景・・・まとめ

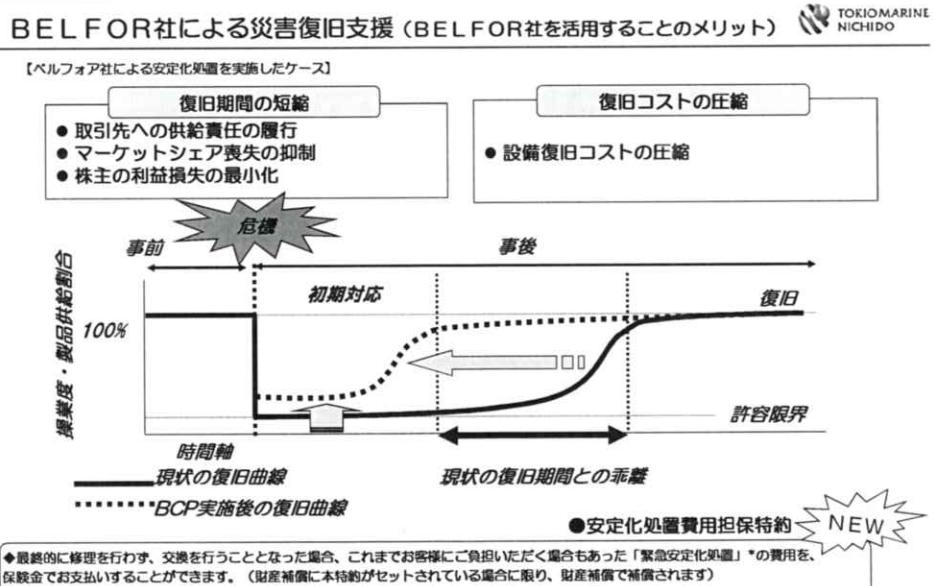


事業中断事故発生時の損害をカバーする保険の必要性



13

V. 操業中断リスクへのご提案



BELFOR社による災害復旧支援



- 火災、爆発、地震、台風、洪水、降雨浸水、化学薬品の漏洩等によって水濡れ、汚損、腐食等の被害を受けた建物・設備を罹災前の状態に修復します。
- 独自の手法で現状安定化処理を施して汚損、腐食の進行を食い止め、精密な分解、洗浄、再組立による修復を短期間に実施します。
- BELFOR社は災害復旧専門会社としての装備や技量の面で、これらの作業を可能としています。

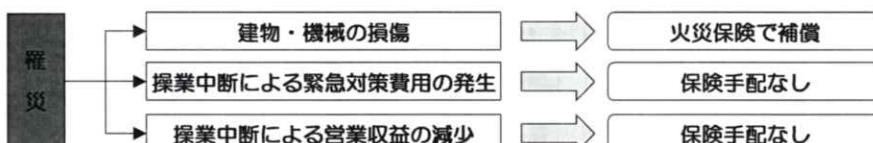


16

操業中断リスクへの対応



操業中断リスクへの対応



企業財産包括保険（営業継続費用・利益損失）のご提案

○例えば、ある工場で罹災により営業収益が30%減少した場合...

「保険による資金手当てをご提案いたします。」

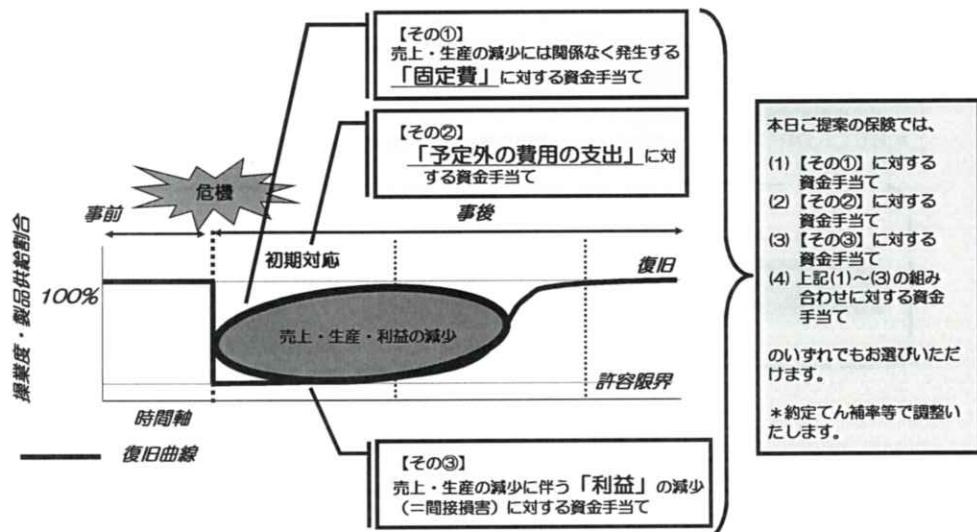
営業収益10億円の工場
(営業利益1億円・経常費4億円・非経常費5億円)



17

ご提案のコンセプト・・・災害発生時における復旧と必要となる資金手当の関係

TOKIOMARINE NICHIDO



18

工場の操業中断リスク

TOKIOMARINE NICHIDO

工場の操業中断リスクの3パターン

【自社の工場が罹災】



自社の建物・設備が損傷

緊急対策費用が発生

営業収益が減少

【取引先の工場が罹災】



自社の建物・設備の損害なし

緊急対策費用が発生

営業収益が減少

【敷地外ユーティリティ設備が罹災】



自社の建物・設備の損害なし

緊急対策費用が発生

営業収益が減少

*敷地外物件保険特約の付帯が必要となります

19

企業財産包括保険（営業継続費用・利益損失）の概要



「企業財産包括保険」では、保険の対象である建物・設備等が、火災・爆発等の不測かつ突発的な事故により損害を被った場合、および電気・ガス・水道・熱・電信・電話等の敷地外ユーティリティ設備の機能が不測かつ突発的な事由により停止・阻害されたためにユーティリティの供給が中断・阻害された場合に工場の操業中断によって生じる収益の減少を防止・軽減するための緊急対策費用または営業収益の減少額の両方もしくはいずれか一方に対する補償を追加することが出来ます。

営業収益の減少を防止・軽減するための緊急対策費用

→ 営業継続費用（補償追加）

操業中断によって生じる
営業収益(*)の減少

(*) 営業収益・・・固定費 and/or 利益

→ 利益損失（補償追加）

*現在のご契約に付帯されている「利益保険不担保特約」「営業継続費用保険金不担保特約」の両方または「利益保険金不担保特約」のみを削除します。
営業継続費用保険金不担保特約のみを削除することは出来ませんのでご注意ください。

20

補償対象



↑
↓
営業収益
(生産高または
売上高)

営業利益

経常費・・・操業中断中も支出を余儀なくされる費用

- ・人件費
- ・減価償却費
- ・通信交通費
- ・租税公課 等

非経常費・・・操業中断時には支出がない費用

- ・原材料費
- ・電力・ガス・水道代
- ・倉庫保管料・運送費用 等

利益損失の補償対象

営業継続費用

・営業収益の減少を防止・軽減するために追加で発生する費用
(例) 外注費用、緊急輸送費用 等

営業継続費用の補償対象
(*)

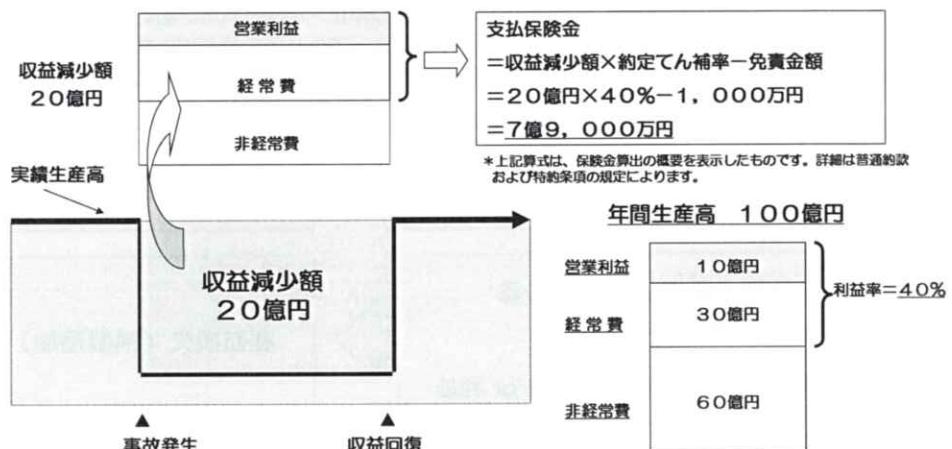
工場の操業中断の結果
支出を免れる経費なので
保険の補償対象外となります

(*) 利益損失に関する補償でも「収益減少防止費用」として、外注費用、緊急輸送費用等について、その投入により防止できた収益減少の範囲内で補償されます。つまり、当該費用の投入によって防止できる収益減少を上回る費用を投入しても、早期の操業再開を要するとされる場合、利益損失の補償を補完する営業継続費用での補償となります。

21

お支払いする保険金のイメージ（利益損失の補償のみ追加の場合）

年間生産高100億円（経常費30億円、営業利益10億円）の企業が、約定てん補率40%（=利益率）、免責金額1千万円でご契約した場合



22

VI. 企業財産包括保険をご採用いただくメリット

企業財産包括保険をご採用いただくメリット



1. 早期復旧

◆必要に応じて世界最大級の復旧会社であるBELFOR社をご利用いただき早期復旧をご支援します。

2. 当期利益の確保

◆操業中断に伴う減益をカバーし、財務内容の悪化を防ぎます。

3. キャッシュフローの確保

◆操業中断に伴うキャッシュフローの悪化をカバーし、手元流動性を確保します。

4. 信用不安の抑制

◆操業中断に伴うステークホルダーの信用不安を抑制します。

5. その他

◆平時における金融機関やお取引先に対する信用力の向上

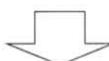
◆有価証券報告書への記載等によるIR効果

24

ご参考：海外の利益損失に対する資金手当て（利益保険加入）の状況



海外において「利益保険」は、広く一般企業に普及しています。



Importance of business interruption insurance

Very few official statistics are available on business interruption insurance, for example in respect of premiums and losses worldwide. On the other hand this is due to the fact that in many countries separate statistics are not compiled for business interruption insurance, and on the other because of the growing popularity of combined covers where it is no longer possible to separate figures for premiums, liability limits, deductibles, etc strictly into the lines of property and business interruption insurance.

Swiss Re ホームより

海外においては、企業財産保険の中に「利益保険」が組み入れられる割合が増加しており、単独で「利益保険」の付保統計をとることはもはや不可能に近い。

25

